

令和元年第20回（臨時）高砂市教育委員会 会議録

日時

令和元年11月7日午後5時30分

場所

高砂市役所西庁舎4階会議室

出席者

衣笠教育長、山名委員、吉田委員、神尾委員、布施委員

出席事務局職員

永安教育部長、阿部教育推進室長、赤松学校教育室長、横山学校教育室学校教育課長、
北野教育推進室教育総務課長

本日の会議に付した事件

議案

- 1 高砂市立図書館指定管理者候補者の選定について

その他

- 1 第3期高砂市教育振興基本計画について

議 事 議案 1 高砂市立図書館指定管理者候補者の選定について

- 事務局 (議案 1 について説明)
- 委員 一般市民の図書館に対する評価のアンケートはありませんか。
- 事務局 この選定には、利用者アンケートは対象になっておりませんが、年に 2 回、利用者アンケートを実施しています。いま、手元に資料がありませんが、図書館の利用に関して「満足」「やや満足」という回答で約 80%から 90%だったかと思います。評価としては今の指定管理者に特に大きな問題はないと考えています。
- 委員 新しい図書館ができて、想定以上に多く利用され、評価がよく、よかったと思います。運営している管理者に話を聞くと、お金のかかることが沢山あると聞いていますので、図書館への寄附行為を受けるシステムを考えてもいいのではと思います。
- 事務局 図書館で現金での寄附の申し出があった場合、本を買っていただき寄贈していただいています。また、個人あるいは団体、会社等から申し出があった場合、雑誌のビニールのカバーに広告を入れてもらい、その雑誌の費用を負担してもらって雑誌スポンサー制度を実施しています。指定管理者が現金を受け取るのは難しいと思います。
- 委員 本の寄贈に関しては、制限があるのですか。
- 事務局 申し出があった場合に、図書館に既に蔵書として複数冊ある場合はお断りしています。専門書や郷土資料などは寄贈を受ける方向で話させていただきます。
- 教育長 議案 1 については、原案どおり可決します。

議 事 その他 1 第 3 期高砂市教育振興基本計画について

- 事務局 (その他 1 について説明)
- 教育長 第 2 回策定検討委員会での審議を経て構成が変わっています。
- 委員 繰り返しの表現があり、また地域性が出てこないのかと違和感があります。
- 教育長 国・県の動きだけではなく、地域性を盛り込んでいくのは大切だと思います。
- 委員 高砂市の取り組みを具体的に入れるべきだろうと思います。「確かな学力の確立」では、学力向上検討委員会で 5 つの力のアップを図るという市独自の取り組みを、自己肯定感、自尊感情を高める、それが「共生の心の育成」で出てくるのですが、これを学力向上にも入れていただきたい。子供を認めるということは、学力が向上するというデータもありますし、注目されています。海外と比べて日本の高校生は自己肯定感が半分程度しかないというデータもあり、こ

これは非常に役に立つ、違う観点から学力向上に切り込める1つのファクターであると思っていますので、検討いただきたいです。「地域の教育力の向上」と「家庭の教育力の向上」は順番を入れかえたほうが良いと思います。あと、コミュニティスクールがないようですが。

○事務局 5つのアップの力は、第2期の課題ですが第3期へ継続していけるのではと考えます。次に、自己肯定感、自尊感情を学力向上にというところですが、表現の仕方を精査する必要があると思います。次に、家庭、学校、地域の順番について、表現をそろえます。コミュニティスクールは、「地域とともにある学校づくり」を推進していきますと表現しています。

○委員 コミュニティスクールや学校評議員制度の運営については難しいところがあり、まだまだ検討課題があります。

○委員 今の学校評議員制度は、地域と学校が一体化して何かに取り組んでいるのが見えません。学校評議員は何をやったらいのか、わかっていない人が多く、コミュニティスクールに変えようという動きになっているのではないかと思います。この計画では、学校評議員制度を活用してとあり、過去何年間もやってきてできていないものを、第3期に施策とするのには疑問があります。

○委員 計画という意味は、将来現実にしようという目標と、この目標を達成するため、重要な手段または段階を組み合わせたものということです。この基本計画は「良くしよう」という抽象的な目標が多く、具体的な目標が明確化されていませんし、いつまでにいうのも明確化されていません。一般的な計画は、トップが何かの達成目標を決めて、それに対して各パーツで展開した目標をそれぞれ立てて、その目標を達成したらトップの目標が達成されるというものです。計画のためには、節目に明確な目標をたてることと、PDCAという方法で、プランを立てたら実行し、必ず誰かがチェックして、その結果をまた反映するという繰り返しをやっていくというのが必要だと思います。この計画にはPDCAのことが多く書いてありますが、PDCAをどう実行するのかが読み取れません。また、学力向上についても具体的に書かれておらず、どう実行できるのか不安です。

○事務局 ここにはお示ししていませんが、各報告書で全体的な学力、上位層、下位層の割合、3つの力や無回答率などを先生方には周知し、低位層や無回答率を減らすための目標について設定しています。

○委員 減らしていこうというのは、よくしようというのと同じであって、目標ではないのです。計画というのは必ず目標があって、PDCAを実行するためには、必ず目標値が設定されて、目標に対して現状どの段階であるかをチェックし、それが十分なら今までのやり方を推進する。十分でない場合には、何か新たな施策をつくる等、そういうことがPDCAのサイクルという考え方だと思うのです。

- 委員 教育の基本計画ですから、人の育て方に関して、数字目標というのは設定するのは難しいと思います。
- 委員 P D C Aは実行できないということですか。
- 委員 学校で色々な教育計画を立てたとき、例えば本を読みましょと、いろいろ読書時間を作った。そうしたことによって、文章題を読めるようになってテストの点が上がった等の具体的な数字での結果は出ていなくても、子どもをみていると本を読んでいる子が増えたとか、新聞を読むような習慣がついてきたとしたら、それはそれで成果としてチェックして、反省したり、次の計画を考えたり、色々なことが出てくると思います。数値化するのが難しい目標が教育のなかでは多くあると思いますが、P D C Aを実行するのは可能であると思います。
- 委員 この計画は、基本指針みたいなものだと思いますので、言葉は少なくてもいいので、読んだ人の心に響くような文章でなければいけないと感じました。前の教育要領に少し寄っているように思います。新しい教育要領は、知識という言葉に対しても認識が大きく変わりますし、求めるものが全く違います。だから、そういうことに危機感を持って、子供たちにはこれが必要だからと、現場の先生たちが具体的に何かしようというところへ気持ちを持っていて、もっと目標数値をきちんと出して、数値で表せないことでも、こういう姿に子供たちを持っていこうとなればいいと思います。
- 事務局 文章表現はまだ見直しが必要と考えています。

令和元年11月7日 午後6時35分 教育長会議の閉会を宣告
